※令和４年度以降入学生用

学校番号	1017

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ　（東京書籍）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小・中学校の国語科書写は、文字を整えて書くことが目標でした。高校の芸術科書道では、書写での学習を基盤にして、芸術としての書の表現に挑んだり、多彩な書の美に親しんだりします。

書道Ⅰでは、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」を学びます。中国・日本の古典の臨書を通して様々な書体・書風を学び、創作に活かします。

授業の説明をしっかり聞き、その時間の目標を理解し、作品を提出します。

筆を扱うことは、難しいことです。難しいからたくさん筆を動かしてください。授業中、書けば書くほど筆は使いやすくなっていきます。

また、身の回りにある書にも目を向けてください。様々な書体で書かれたパッケージや看板があります。様々なことから感性を養い、書道作品の表現に活かしましょう。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

① 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

② 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

③ 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えている。	・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4・5・6月	書写から書道へ	用具・用材 書写と書道の違い 基本的筆使い 漢字の成立と変遷	a:用具・用材や漢字に関する知識や扱い方を理解している。 基本的筆使いを身に付けている。 b:用具・用材の特性を生かした表現効果を理解している。 書写で学習したことを理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け表している。 c:漢字の書体の変遷に関心を持ち、意欲的、主体的に理解しようとしている。 基本的筆使いを身に付け、書写能力の向上に努めている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品
	漢字の書	楷書・臨書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 自書告身 牛橛造像記 楷書・創作	a:臨書の意味や表現方法を理解している。 それぞれの古典の特徴を理解し、表現する技能を身に付けている。 b:古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその表現方法を工夫している。 自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感受し、表現を構想し工夫している。 c:古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 書写の感興や意図と字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に書の美を味わおうとしている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品

※令和４年度以降入学生用

7・8・9・10.月	篆刻	篆刻の種類 自分の名前を刻す 選文・検字 印稿作成 布字 運刀 押印・補刀	a:篆刻の伝統と文化について幅広く理解している。 文字や印材と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた技能を身に付け、表している。 b:篆刻の表し方やその美しさを理解し、表現を工夫している。 字形や文字の意大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、表現を工夫している。 c:基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を理解しようとしている。 篆刻の美しさと表現効果を味わい、見ることを楽しむことで、篆刻への関心を高めようとしている。	作品制作プリント 提出作品	作品制作プリント 提出作品	観察 提出作品
	漢字の書	行書・臨書 蘭亭序 風信帖 争坐位文稿 篆書・臨書 泰山刻石 隷書・臨書 曹全碑	a: 臨書の意味や表現方法を理解している。 それぞれの古典の特徴を理解し、表現する技能を身に付けている。 b:古典の臨書・鑑賞を通して行書、篆書、隷書の美とその表現方法を工夫している。 自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感受し、表現を構想し工夫している。 c:古典の臨書・鑑賞を通して楷書の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 書写の感興や意図と字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に書の美を味わおうとしている。	ノート 提出作品	ノート 提出作品	観察 提出作品

※令和４年度以降入学生用

11.・12.・1・2月	仮名の書	用具・用材 仮名の成立と種類 仮名の筆使い 平仮名 古筆臨書 蓬莱切 高野切第三種	a:仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、創造的な技法を身に付け、表している。 連綿の美しさと散らし書きについて理解している。 b:仮名の書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。 全体構成にも目を向け、空間を生かした作品作りを工夫している。 c:仮名の発生から成立、現在の平仮名、片仮名について理解しようとしている。 表現技法の基礎・基本を身に付け、仮名の書写能力を向上しようとしている。	鑑賞レポート ノート 提出作品	鑑賞レポート ノート 提出作品	観察 鑑賞レポート 提出作品
	漢字仮名交じりの書	いろいろな線の表現 構成について 作品創作	a:漢字の書と仮名の書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 b:運筆のリズム、線質、墨の濃淡、潤滑、筆圧、文字の大小、用紙の工夫、全体構成などを工夫して、自分の言葉のイメージを表現している。 c:漢字と仮名の調和と線質との関係について関心を持ち、表現を高めようとしている。 互いの作品を鑑賞し、そのよさや美しさを理解し、創造的に味わおうとしている。	作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート	作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート	観察 作品制作プリント 提出作品 鑑賞レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度